令和５年度事業報告

● 基 本 方 針

昨年は、新型コロナウィルスが五類に変更されたことを受け、当協会事業もコロナ前に戻りつつ事業を行うことができた。

「アイヌ施策推進法」並びに「北海道アイヌ政策推進方策」による総合的なアイヌ政策が推進されるよう働きかけるとともに、とりわけアイヌの生活向上とエカシ・フチに対する支援策を内閣官房アイヌ総合政策室や北海道選出国会議員に要請した。

５年目となるアイヌ施策推進法に基づく交付金事業については、道内３６自治体、道外１自治体において展開され、当会理事長が道内自治体を訪問し、積極的な活用を促した。

「民族共生象徴空間ウポポイ」の開業以来、協会事業とも連携し普及啓発を行った。

法人の基盤となる第１類正会員（以下、地区協会）はもとより、地区協会本会員との連携を深めつつ、アイヌ民族自らの活動展開と国民理解により得られる協賛により法人運営の健全強化に努めた。

１．アイヌ施策推進法の法制理解と利活用
２．生活向上施策及び文化振興施策の見直しと充実
３．新法制定を踏まえた組織強化への取組
４．新法制度の全国展開を見据えた道外アイヌの認定等

＜２つの項目＞

１　組織・活動強化の推進

２　事業の推進

１　組織・活動強化の推進

１　要請活動等の展開

先住民族アイヌに関する総合的なアイヌ政策を確実に推進していくため、国政や関係行政機関に対し働きかけを行った。

また、北海道大学アイヌ・先住民研究センターと協働し、啓発・研修活動等を進め、人権啓発活動等に取組む（公財）人権教育啓発推進センター、反差別国際運動等の情報入手に努めた。

（１）「アイヌ施策推進法」の施策活用

アイヌ文化の伝承・保存活動への取組みを推進するため、各地区協会はもとより、各古式舞踊保存会などがこの施策を有効に活用できるよう､事業の周知と実施方法についての助言、助力を行った。

（２）政府並びに各政党に対する働きかけ

アイヌ民族に対する理解促進や１５０年間何も変わっていない厳しいアイヌの生活に対し、生活の向上や子弟の教育の充実をお願いした。

特に、貧困と差別の中で悲しい思いをされてきたエカシ・フチが、この国に生まれて良かったと思える政策が促進されるよう要請した。

〇政府等
・岡田内閣府特命大臣との面談　令和5年 7月 8日（ウポポイ）
・斉藤国土交通大臣との面談　　令和5年 7月12日（ウポポイ）
・自見内閣府担当大臣　　令和5年10月 5日（ウポポイ）

〇政党等
・鈴木宗男参議院議員　　令和5年 8月 5日（札幌/北海道セミナー）
・鈴木貴子衆議院議員（ｱｲﾇ議連事務局長）　令和5年 8月 5日（札幌/北海道セミナー）
・高橋はるみ参議院議員　　令和5年10月14日（札幌））

〇アイヌ政策推進会議　　令和5年 7月 7日（札幌）

（３）北海道への対応
第９回「北海道アイヌ生活実態調査」の事前調査に協力し、協会未設置自治体からの照会等に応じた。

（４）民族共生象徴空間の施策推進に対する働きかけ

①民族共生象徴空間ウポポイの認知度の向上
ウポポイの啓発パンフレット等広報資材を、公共施設や商業施設の利用者に配付したほか、公共施設等に配架、留置きをお願いし、ウポポイに対する国民理解、認知度の向上に努めた。

（５）遺骨・慰霊について

①慰霊施設における鎮魂式並びにカムイノミ・イチャルパ
慰霊施設に集約された、国内の12大学、5博物館、ドイツ、オーストラリアから返還されたアイヌ遺骨の鎮魂式並びにカムイノミ・イチャルパを実施した。

・令和5年10月15日（日）　ウポポイ慰霊施設（白老町）

②北海道博物館におけるイチャルパへの協力（主催者：北海道博物館）
令和5年度の実施が見送られた。

③研究倫理検討委員会準備会並びにラウンドテーブルへの参加
〇アイヌ民族に関する研究倫理指針「研究倫理委員会」準備委員会

・日時　令和5年5月30日（中村副理事長、貝澤局長）
・日時　令和5年9月 8日（中村副理事長　貝澤局長）

④オーストラリア所在したアイヌ遺骨の返還
・令和5年5月2日～8日
（大川理事長、中村副理事長、小川常務、平村祭司、佐々木イヨマレクル、貝澤局長）
オーストラリア国立博物館（1体）、ビクトリア博物館（2体）に収蔵されたアイヌ遺骨を引き取り、5月8日ウポポイ慰霊施設に納める。
5月6日　メルボルン博物館において返還式、カムイノミを執行。

⑤国内博物館（18館）保管のアイヌ遺骨及び副葬品のウポポイ慰霊施設への集約

・令和5年9月11日　返還手続きに基づき慰霊施設に集約が決まった５館（夕張市石炭博物館1体、根室市歴史と自然の資料館21体、豊浦町 央公民館1体、厚岸町海事記念館4体、東京国立博物館1体）２８体のアイヌ遺骨がウポポイ慰霊施設に集約される。
墓所前に花束、供物を供え献花式を執り行った後、墓所内に納められた。

（６）農林漁業対策の推進
農林漁業対策については、地域の営業実態に応じた生産基盤や近代化施設の整備を進めるため、アイヌ農林漁業対策事業の積極的な活用を図るとともに、団体会員への制度理解に努めた。

（７）住宅対策の推進
住宅の改善促進に努めた。

（８）先住権、人権に係わる機関･組織等に対する働きかけ

① 法務省の啓発動画「アイヌの人々の人権に関する啓発動画「アコロ青春　a=kor　アコロ」やイランカラプテキャンペーンなどの啓発事業や各種人権啓発資料の活用を通じ人権思想の普及・啓発に努めた。

② アイヌ民族の先住域である千島、樺太、北海道などの歴史的な実証資料や図書資料の収集に努めた。

③「FSC森林認証制度における管理木材リスク評価」について
「製紙会社が調達する北海道産木材がアイヌの伝統文化継承を阻害するような森林伐採に由来しないか、或いは森林域においてアイヌ文化の振興・発展にどのような支援が必要か」といった観点から王子製紙と日本製紙、千歳林業、新秋木工業が実施するヒアリングに道協会・関係地区協会が協力した。

（９）自主的啓発活動の推進
平時、内外からの照会に応じて啓発活動の推進に努めた。
あわせて広報紙、冊子、チラシ、道の啓発誌、ＤＶＤなどをとおして、平時継続的な周知を図った。

(10) ホームページの充実
当法人のホームページによりアイヌ協会の活動方針や各種資料､最新の情報提供に努めた。
また、新規会員募集についての情報提供を行った。
（URL：http://www.ainu-assn.or.jp）
昨今、インターネット上で発信される情報の中には、アイヌに対する誤解にもとづくものや不適切表現、誹謗中傷の類いまで様々散見され、さらには杉田水脈衆議院議員のSNS投稿が札幌法務局から人権侵犯に当たるとする報道があり、これらの言動はアイヌ民族の尊厳を著しく傷つけられるものであり、「昨今のアイヌ民族に関する情報発信、SNS投稿等について（令和5年12月15日)」と題して強く批判の意を表明した。

(11)「アイヌ文化交流センター」の運営への協力
東京都に設置されている「アイヌ文化交流センター」との連携を図り、事業運営等に協力した。

(12) 道外在住アイヌに対する施策実現への働きかけ

総合的なアイヌ政策を推進していくため、関東域の関係団体・個人と連絡を密に情報を共有を行った。

（13）北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの事業連携

同センター実施事業への協力を行うとともに、当協会事業に対するセンター教員等の支援協力を得た。

（14）北海道博物館（アイヌ民族文化研究センター）とも連携を密にし、事業の推進に協力した。

（15）教科書等のアイヌ民族に関する調査研究

また、内閣官房が主催する「アイヌに関する教科書編集セミナー」（令和5年12月1日）に対応した。

（16）教育相談員の配置等

既存の北海道教育庁、市教育委員会に配置されている教育相談員と協力・連携し、地元の意向に即した支援を行った。

（17）図書・刊行物等の過誤対応

アイヌ民族の歴史や文化に関する刊行物（観光資料）の記述について、(公社)北海道観光振興機構に設置された「アイヌ文化分科会」など関係機関とも連携、協力し正確な知識の普及に努めた。

２　組織の強化

（１）団体会員等との連携強化

アイヌウタリが一致団結し運動を展開するため、過去の不祥事を教訓に二度とくり返さぬよう常に心に刻むこととし、各地区協会（団体）や会員（本会員）への情報提供や共有を図りつつ、組織運営に努めた。

各地区協会の総会、地区協会事業等に協会役員が出向いた。

小樽市、足寄町在住のアイヌ同胞から地区協会設立に向けた相談があり、地元役員や事務局が現地に赴き設立準備を進め設立総会を経て、令和6年1月31日の第3回理事会において団体会員として正式に承認された。

一方、美幌協会が本会員の高齢化、壮瞥協会においては会員資格の喪失により２協会が減少した。

＜参加地区、出席役員一覧表＞　　※各地区協会からの通知、報告もとに掲載
※各地区事業は、コロナ対策が講じられた。

期　　日	行　　事　　名	出席役・職員
令和5年　4月 2日(日)	帯広アイヌ協会総会	
4月 3日(月)	標津アイヌ協会総会	
4月 6日(木)	根室管内アイヌ協会連合会総会	
4月15日(土)	上士幌アイヌ協会総会	
4月10日(月)	弟子屈アイヌ協会総会	

期　　日	行　　事　　名	出席役・職員
4月16日(日)	苫小牧アイヌ協会総会	
4月16日(日)	千歳アイヌ協会総会	
4月16日(日)	えりもアイヌ協会総会	
4月16日(日)	様似アイヌ協会総会	縮小開催
4月23日(日)	三石アイヌ協会総会	縮小開催
4月24日(月)	阿寒アイヌ協会総会	
4月26日(水)	釧路アイヌ協会総会	
4月28日(金)	白老アイヌ協会総会	
4月30日(日)	平取アイヌ協会総会	
4月	新ひだかアイヌ協会総会	書面表決
4月	新冠アイヌ協会総会	書面表決
4月	室蘭アイヌ協会総会	書面表決
5月 6日(土)	ﾗﾎﾟﾛｱｲﾇﾈｲｼｮﾝ(浦幌アイヌ協会)総会	
5月13日(土)	第11回シベチャリ武四郎まつり	
5月14日(日)	浦河アイヌ協会総会	
5月19日(金)	登別アイヌ協会総会	
5月21日(日)	日高地区アイヌ協会連合会総会	理事長
5月26日(金)	伊達アイヌ協会総会	
5月27日(土)	函館アイヌ協会総会	理事長
5月28日(日)	日高アイヌ協会総会	
5月28日(日)	札幌アイヌ協会総会	
5月	旭川アイヌ協会総会	
6月11日(日)	新ひだか　第54回イチャルパ	
6月12日(日)	弟子屈　第7回パリモモ祭り	
6月24日(土)	芽室アイヌ協会総会	
7月1日(土)	第30回コシャマイン慰霊祭	理事長
7月1日(土)	第6回阿寒湖カパチェプノミ	
7月2日(日)	洞爺湖町チセノミ・イチャルパ	理事長
7月16日(日)	八雲 カムイノミ・イチャルパ	理事長
7月22日(土)	豊浦 カムイノミ・イチャルパ	
8月 6日(日)	帯広　アイヌ共同納骨堂慰霊祭	理事長

期　　日	行　　事　　名	出席役・職員
8月13日(日)	八雲アイヌ先駆者鎮魂の碑供養	理事長
8月20日(日)	浦幌　カムイノミ・イチャルパ	
9月 3日(日)	日高　無縁佛供養祭	縮小開催
9月10日(日)	三石・浦河　アイヌ音楽祭2023	
9月18日(月・祝)	本別イチャルパ	
9月23日(土・祝)	第77回シャクシャイン法要祭	理事長、副理事長、常務理事
9月27日(水)	恵庭アイヌ協会総会	
9月29日(金)	釧路町　吉良平治郎 慰霊祭	小川常務
9月29日(金)	小樽アイヌ協会設立準備会、総会	貝澤局長
10月 1日(日)	厚真 カムイノミ・イチャルパ	
10月 1日(日)	三石 第30回イチャルパ	縮小開催
11月 5日(日)	白糠 第44回ししゃも祭り	※理事長
12月 1日(金)	足寄アイヌ協会設立総会	小川常務
令和6年1月	長万部アイヌ協会総会	
2月25日(日)	八雲アイヌ協会総会	理事長

（２）アイヌ施策推進法によるアイヌ施策の推進

アイヌ施策推進法に基づく施策の推進に国民理解を深めていただくため、国民を代表する国会議員にご理解とご協力をお願いした。

（３）会員研修事業

「会員研修会」

令和6年3月30日、31日の両日、地区協会代表者による会員研修会を実施した。

第Ⅰ部　「国におけるアイヌ政策の推進状況について」内閣官房アイヌ総合政策室
「2025大阪万博におけるアイヌ文化の発進」

第Ⅱ部　「日本文化人類学会とアイヌ民族との関わり」日本文化人類学会
「法人の活動・組織強化等について、意見交換・自由討議」

（４）地区別懇談会

未開催

（５）青年女性対策の推進

「青年・女性の集い」

日　時：令和5年3月24日(日) 13:00-15:30
場　所：かでる２・７
内　容：講演　「今を生きるアイヌ民族」門別徳司（平取町）
「三世代にわたるお話し」杉村　忍、早坂ユカ、早坂由似（札幌）
全体協議
参加者：２０人

（６）各種相談員の合同研修会

日　時：令和5年10月11日～12日
場　所：かでる２・７
内　容：初任者研修
講演・スキルアップ研修
「労働問題」ワークルール（プライバシー・個人情報保護）について
講師：札幌弁護士会弁護士　小谷大介
情報提供
・北海道アイヌ協会事業について（アイヌ協会事務局）
・令和5年度北海道アイヌ生活実態調査について（北海道アイヌ政策課）
グループ討議、意見交換
参加者：研修会３９人、初任者研修１０人

（７）連帯意識の高揚
各種貸付金の返還について、各個人の責任において必ず履行されるよう償還義務の確認、連絡徹底に努めた。また、償還が滞っている地区協会と連携し償還督促に努めた。

（８）生活館活動
各地区独自の活動実施にとどまった。

（９）市町村への働きかけ
アイヌ施策推進法に基づく新しい交付金事業について情報共有と連携を図った。
また、市町村が行っているアイヌ関連施策の充実、生活格差の是正等、引き続きアイヌ施策や推進体制が充実するよう理事長が関係市町を訪問し働きかけを行った。

・令和5年11月17日　上ノ国町教育委員会
・令和6年 3月21日　小樽市長

（10）財政基盤の強化
会費収入は減少傾向（本会員の減）にあり、賛助会員、寄付金などの自主財源の確保に努め、５９団体（309口、3,090,000円）、２６個人（161口、483,000円）の賛助会員の協力を得た。

３　会務の運営

（１）理事会、アイヌ協会役員研修・連携会議の開催
総会で議決された事項及び会務の執行を適正かつ効果的に推進するため、理事会を年４回程開催した。
また、必要に応じて適宜三役会議を実施した。
＜理事会＞

回　　数	開　　催　　日	場　　所
第　１　回	令和５年　４月２８日（金）	札　幌　市
第　２　回	令和５年　６月　４日（日）	札　幌　市
第　３　回	令和６年　１月３１日（水）	札　幌　市
第　４　回	令和６年　３月３０日（土）	札　幌　市

＜役員研修・連携会議＞

回　　数	開　　催　　日	場　　所
第　１　回	令和５年　４月２７日（木） ２８日（金）	札　幌　市
第　２　回	令和６年　１月３０日（火） ３１日（水）	札　幌　市
第　３　回	令和６年　３月３０日（土）	札　幌　市

（２）監事監査の実施

当会の財務規程に沿って２回の監査を実施した。

令和５年度の執行部の業務や会計事務の適正執行に努め、監事監査とともに公認会計士による監査を実施した。

・第１回会計監査：令和5年12月9日(土)
・第２回会計監査：令和6年4月27日(土)
・公認会計士監査：令和6年4月27日(土)

２　事業の推進

（１）社会的地位の向上に関する啓発と施策の推進

先住民族アイヌに関する知識の普及と理解促進のため､一般市民及びアイヌ当事者に対し、国際人権規範や人種、民族等に係る情報収集や対面交流等、適切かつ効果的手法により各種広報・啓発を行った。

①広報紙「先駆者の集い」の発行

年２回（B5版p.8）各4,300部発行。協会団体会員本会員、賛助会員や行政機関、研究者等に無料配付した。

②ホームページによる情報発信

当協会ホームページにより、先住民族アイヌの情報（組織概要、アイヌ史年表、国連活動、民芸品事業者、観光ガイド等）を発信した。

③「2023年 国際先住民族の日記念事業」

日時：令和6年1月20日(土)
場所：かでる2・7　大会議室
内容：報告①「形質人類学におけるアイヌ研究」 13:10～13:40
近藤　修氏／東京大学准教授
報告②「アイヌ文化と考古学」 13:50～14:20
矢島國雄氏／明治大学名誉教授
報告③「倫理委員長として行ってきたこと、聞いてきたこと、考えてきたこと」
14:30～15:00
飯嶋秀治氏／九州大学教授）
意見交換
ﾓﾃﾞﾚｰﾀｰ：加藤博文（北大アイヌ・先住民研究センター長）
日本人類学会　近藤　修（東京大学准教授）
日本考古学協会　矢島國雄（明治大学名誉教授）

日本文化人類学会　飯嶋秀治（九州大学教授）
北海道アイヌ協会　中村吉雄（アイヌ協会副理事長）
〃　貝澤和明（アイヌ協会事務局長）

④アイヌ文化パフォーマンス発信事業（東京2020オリ・パラレガシー事業）
「東京2020オリンピック・パラリンピック」において発信したパフォーマンスを継承した「チームパラル」による演示の磨き上げ、並びに公演を行った。（23分 12演目）
また、このアイヌ古式舞踊を一般市民向けに紹介・解説する動画を制作した。（15分）

（２）各種貸付金の貸付
福祉（緊急使途支援）、環境整備（浴室、墓碑整備）、入学一時（大学、私立高校、専修学校）を、道内に居住するアイヌの生活向上や生活環境整備の支援のために、使途に応じて各種貸付を行った。

①福祉資金
・貸付限度額10万円以内 22件（2,200,000円）の活用があった。

②環境整備資金　　申請なし
〇浴室整備資金
・貸付限度額20万円以内0件（0円）
〇墓碑整備資金
・貸付限度額30万円以内0件（0円）

③入学一時資金
〇大学入学一時資金
・貸付限度額30万円以内1件（200,000円）
〇私立高校一時資金
・貸付限度額20万円以内1件（200,000円）
〇専修学校一時資金
・貸付限度額30万円以内0件（0円）

（３）職業の確立及び教育の振興に関する施策の推進
道内居住アイヌの就労、就職に係る技能向上や各種免許取得等の所要経費の助成並びに就職相談や求人開拓等に携わるアイヌ雇用推進員設置による指導、アイヌ民工芸品生産者を対象に販路拡大や就業支援、技能向上などの各種支援策を推進した。

①就職奨励事業
〇就労や就職に係る支度費用や就職条件のための「就職支度資金」、「自動車等免許取得資金」などの所要資金を助成した。
・就職支度資金23,760円　　0件（0円）
・技術習得資金50,000円以内　　11件（550,000円）

②アイヌ雇用促進事業
〇アイヌの雇用促進に対処するため雇用推進員を設置、就労・就職相談や求人開拓等によりアイヌの雇用と生活安定の促進を図った。
・全道13カ所のハローワークに雇用推進員を配置し、当該業務に従事した。
延べ338日間の活動で361件の相談を受理、63件の就職・求人に結びつけた。

令和５年度活動実績は次のとおり。

項目＼月別			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1.活動日数			28	28	29	29	27	25	28	28	29	29	28	30	338
2.相談件数	1)求職者相談件数		30	30	35	31	28	28	27	26	30	31	30	35	361
		有効求職者	19	22	21	20	17	21	19	19	23	22	19	25	247
		新規学卒者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		その他	11	7	14	11	11	7	8	7	7	9	11	10	113
	2)事業所相談件数		1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	0	12
		一般求人	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		新規学卒者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	11
3.安定所に取次いだ件数	求職取次		4	5	6	4	5	4	4	4	5	6	6	6	59
	求人取次		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4.職場適応指導件数			5	5	2	5	5	4	3	5	4	3	5	5	51
5.安定所に取り次いだ求人情報のうち求人受理件数（求人数）			0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
6.就職に至った件数			6	6	6	3	6	3	5	5	4	4	7	8	63

③アイヌ中小企業経営改善指導事業

アイヌ事業者の事業活動の促進と経営安定化を図るため、各地区協会並びに個人事業所宛てに経営相談等の希望を募り指導事業を実施した。

④アイヌ中小企業振興対策事業

〇アイヌ民工芸品生産者の販路拡大や後継者育成、さらには新製品開発や需要喚起、民工芸等の製作技術や文化の普及・理解促進のために行う作品展示、製作実演・体験、販売などによる「民芸品展示・販売会」を開催した。

開催地	場　　所	期　　間	体験講師／実演者
千歳市	新千歳空港 ターミナルビル ２階	令和5年 10月26日～ 30日	体験講師：宮川正子、貝澤竹子 実 演 者：荒木　繁
	新千歳空港 ターミナルビル ２階	令和5年 11月16日～ 20日	体験講師：長縄由加利、石井美香 実 演 者：阿部紘美、貝澤竹子、関根真紀
	新千歳空港 ターミナルビル ２階	令和6年 2月29日～ 3月 4日	体験講師：阿部紘美、貝澤竹子 実 演 者：荒木　繁、宮川正子 長縄由加利、石井美香
白老町	ウポポイ インフォメーショ ョンセンター	令和5年 10月 6日～ 9日	体験講師：荒木　繁 実 演 者：吉田信男、吉村政彦
東京都	ギャラリー 八重洲	令和6年 1月15日～ 20日	実 演 者：荒木　繁、吉村政彦

〇博物館の民族資料の熟覧・講習受講等による知識・技能等の向上、先進地視察や国立民族学博物館の外来研究、技術指導受講などによる研鑽、調査研究及び経営研修などを進める「工芸者技術研修」を行った。

＜道外研修＞

国立民族学博物館に外来研究員としての受け入れを依頼し、アイヌ工芸者の技術向上とアイディアの開発、さらにはアイヌ工芸品の振興発展を目的に研修を行った。

・研修期間：令和５年１１月２１日（火）～１２月４日(月)(14日間)
・参 加 者：毛房 千夏（阿寒）
・報 告 会：研修終了後、研修報告会を実施した。

＜道内研修＞

①道内調査研究

国立アイヌ民族博物館において、収蔵資料を熟覧調査した。

・研修期間：令和５年１２月～令和６年２月（計６回）
・参 加 者：八重 清敏(木彫)(鶴居) / 岡田 育子(刺しゅう)(白老)
・報 告 会：研修終了後、研修報告会を実施した。

②道内技術研修

アイヌ工芸者の技術向上と経営手法を習得するため、熟練工芸作家による技術指導と経営や販売促進に関する研修を実施した。

・研修期間：令和５年１２月～令和６年３月（計6回）
・講　　師：①技術指導（編み）優秀工芸師　堀 悦子
　　②経営セミナー　　中小企業診断士　　大塚 正明
・参 加 者：廣川 和子(編み)(帯広) / 吉根 とみ子(編み)(帯広)
・報 告 会：研修終了後、研修報告会を実施した。

（４）民族文化の保存・伝承及び発展に関する施策の推進
①第57回北海道アイヌ伝統工芸展
・期　　間　令和6年2月9日（金）～13日（火）
・場　　所　かでる２・７　１階展示ホール
・参加地区数　10地区協会（33人）
・出品数及び　伝統工芸品部門 28点　　一般工芸品部門 28点　　計 56点
・審査委員　元道立近代美術館学芸部長　浅　川　　泰
（敬称略）　北海道博物館学芸主査　大　坂　　拓
　　北海道アイヌ協会優秀工芸師　宮　田　初　枝
　　北海道アイヌ協会優秀工芸師　貝　澤　　徹
　　北海道アイヌ協会優秀工芸師　岡　田　育　子
・受賞者一覧

	伝統工芸品部門			一般工芸品部門		
	作品名	地区名	氏　名	作品名	地区名	氏　名
最優秀賞（※1）	子持ちイタ	平　取	岡本　朋也	アットゥシ織り（男帯）	平　取	坂本　エミ
優秀賞（※2）				タペストリー	札　幌	石井　彩花
優秀賞（※3）	カラフト文様のマンタリ	標　津	西山　知花			
優秀賞（※4）	イエオマㇷﾟ（おぶいひも）	平　取	二谷　文子	チヂリタペストリー	八　雲	椎久　幸子
奨励賞	マキリ	札　幌	居橋　　朗	カパラミㇷﾟのタペストリー	札　幌	居橋　千明
同	切伏木綿衣	伊　達	菊田　秀子	タペストリー「イオマンテウポポ」	札　幌	杉村　　忍
同	丸イタ	平　取	平村　太幹	ｴﾑｼｱｯ柄のｶﾞﾗｽﾋﾞｰｽﾞﾌﾞﾚｽﾚｯﾄ	浦　河	堀　多榮子
同	チヂリ	札　幌	光野　智子	エムシアッ文様2wayバッグ	札　幌	長縄由加利
同	イタ	平　取	西山　　涼	裁縫道具入れ	帯　広	廣川　和子
同	着物（チヂリ）	帯　広	廣川　和子			

※1 最優秀賞（北海道知事）　　※2 優秀賞　（北海道議会議長）
※3 優秀賞　（北海道教育委員会教育長）　※4 優秀賞　（かでる賞）

②アイヌ民俗文化財伝承・活用事業（道教委委託事業）

〇アイヌ民俗文化財理解のための用語や伝統技術の習得、民俗芸能の伝承等の講座を開設し一般市民及びアイヌ同胞への伝承普及等を図った。

・アイヌ民俗技術伝承講座　　5会場(白老/むかわ/帯広/釧路/鶴居)
・アイヌ民俗芸能伝承講座　　5会場(札幌/白老/むかわ/帯広/釧路)
・アイヌ民俗技術・芸能伝承講座発表・展示
令和6年1月27日（土)、帯広市生活館（帯広）にて実施

③アイヌ民族文化祭2023

民族文化の伝承と発展を図るため、「アイヌ民族文化祭2023」を開催した。

◆開催日時：令和5年8月26日（土）　13:00～16:45
◆開催場所：道民活動センターかでる２・７アスビックホール
◆入場者数：２００人（関係者、出演者等を含む）
◆内　　容：

開会式　　主催者挨拶　理事長　　大川　勝
来賓挨拶　　北海道アイヌ政策監　相田　俊一
札幌市市民文化局長　前田　真子

講　演Ⅰ　先住民族アイヌの文化について考える
テーマ「アイヌ・環日本海地域の神話」
講師　北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授　北原モコットゥナシ

文化公演Ⅰ　多文化交流の取り組み
江差追分と江差追分踊り
・江差追分会
・江差追分踊り保存会

講　演Ⅱ　先住民族アイヌの歴史について考える
テーマ「１８～１９世紀のアイヌ社会を考える～アイヌ絵を史料として～」
講師　北海道大学アイヌ・先住民研究センター招へい教員　佐々木利和

文化公演Ⅱ　北海道アイヌ古式舞踊連合保存会
・札幌ウポポ保存会
・千歳アイヌ文化伝承保存会

関連企画 北海道博物館　第15回アイヌ文化巡回展2023in札幌市
札幌の地名と歴史を訪ねて（かでるアスビックホール・ホワイエ）

④ウポポイ園内アイヌ舞踊等披露発信事業

各保存会に地域で伝承してきた古式舞踊をウポポイの体験交流ホールで披露していただきアイヌ文化の発信と理解促進を目的に実施した。

・参 加 団 体　１３保存会
・実施時期等　５月から１月　２０回
（１回土日の２日間。１日２公演。１公演３０分）

・観　客　数　　総観客数１３，１４７人（１公演当たり約１６７人）

⑤ウポポイ運営モニター事業

　各地区協会や保存会等アイヌ関係団体会員等にモニターになっていただき、博物館等ウポポイの各施設群やそので実施されている体験プログラム等を観覧していただき、アイヌ民族の目線から、感想や意見、要望等をアンケート方式で出していただき、ウポポイのよりよい運営に資することを目的に実施した。

・調 査 期 間　６月から１月
・参加団体等　２１団体　２２２名

⑥アイヌ工芸inみんぱく

◆開催日時：令和5年11月30日（木）～12月3日（日）　10:00～17:00
◆開催場所：国立民族学博物館　エントランスホール
◆参 加 者：荒木　繁（札幌）、堀　悦子（浦河）
◆内　　容：アイヌ協会優秀工芸師の作品を紹介と体験ワークショップを通じて、アイヌ文化の理解と工芸品の普及啓発、さらには工芸作家の技術交流を深めた。

（５）諸民族との交流及び情報交換

①国内文化交流事業

〇北海道大学及び札幌医科大学イチャルパ（供養祭）など、古式に則る先祖供養の実施により伝統文化の体験交流と技能習得による保存活動を実施し、併せて人類学等の研究者、大学関係者との遺骨返還方法等の協議や研究成果の社会還元、相互理解等を図った。

「北大イチャルパ文化交流の集い」－北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ－

・日　程：令和５年８月４日（金）13:00～15:00
・場　所：北海道大学医学部敷地内「アイヌ納骨堂」
・参加者：７０人

「札医大イチャルパ文化体験交流の集い」－札幌医科大学におけるイチャルパ－

・日　程：令和５年１０月４日（水）13:30～15:20
・場　所：札幌医科大学構内
・参加者：７０人

〇文化理解の促進と伝承活動の活性を図るため、アイヌ古式舞踊の保存団体を招聘した「芸能交流会」を開催し、各地に伝わる舞踊や歌、楽器演奏等を一般市民やアイヌ同胞に紹介した。

・日　程：令和５年９月２３日（土・祝）
・場　所：真歌公園広場（新ひだか町静内真歌）
・出　演：１１保存会（２００人）

〇後継者の育成とアイヌ文化等の理解促進を図るため、「優秀工芸師」による「優秀工芸師秀作展示交流会」を開催し秀逸な作品の展示、技術指導を行った。

・日　程：令和６年２月９日(金)～１２日（月・休）
・場　所：かでる２・７　１階展示ホール
・実演者：優秀工芸師　５人

（６）道立アイヌ総合センターの管理

北海道条例に基づき指定管理者として道立アイヌ総合センターの指定管理業務を行った。

〇一般市民に対しアイヌ民族への理解を深めるため、常設展示や関係図書、史・資料の利活用の促進を図った。施設空間の活用などによりアイヌ文化の体験学習や講習会を実施、伝承と保存活動を推進した。

令和５年度アイヌ総合センター学習事業実績

※新型コロナウィルス感染症拡大のため、定員を縮小した。

講　習　名	日　　程	講 師 名	延べ人数
アイヌ刺しゅう講習会（初級①）	6月 8日、6月15日 6月22日、6月29日	北嶋由紀	40人 （10人×4回）
アイヌ刺しゅう講習会（初級②）	9月 7日、7月14日 7月21日、7月28日	北嶋由紀	64人 （16人×4回）
アイヌ刺しゅう講習会（中級）	7月 6日、7月13日 7月20日、7月27日 8月 3日	宮田初枝	40人 （8人×5回）
アイヌ刺しゅう講習会（勉強会）	6月12日、 6月19日 6月29日、 7月10日 7月24日、 8月 7日 8月22日、 9月 4日 9月25日、10月 2日 10月16日、10月30日	宮田初枝	108人 （9人×12回）
合　　計			252人

〇自主事業等の実施

（自主企画事業）

・アイヌ民工芸品（北海道アイヌ伝統工芸展受賞作品）をアイヌ総合センター内に展示し、優秀作品の鑑賞機会の提供と伝承技術の奨励を促進した。

（広報活動等）

・アイヌ協会ホームページ、講習会周知、かでる広報への施設案内・行事の周知を行った。

（７）人種、民族に関する調査研究及び提言

先住民族アイヌに関する文化的伝統や慣習、歴史、言語、文化遺産、文化的表現を保持、管理、保護し、発展させるため、必要な情報収集に努めた。

①アイヌ民俗文化財調査事業　　道教委委託事業

〇故金成マツ筆録、ユカラ翻訳整理及び伝統的な生産生業、民俗技術、口承文芸などの調査を行った。

・萱野茂二風谷アイヌ資料館保管の金成マツノート中、２話の翻訳整理と原稿化。
表記法等：（筆録原文音素表記・アイヌ語カナ表記・邦逐語訳/対訳）２編。

・民俗技術の調査